# 全国大学生マーケティング・コンテスト参加報告

第 15 期生　穂苅 華子

**◆全国大学生マーケティング・コンテストとは…？**

全国大学生マーケティング・コンテスト（以下，マケコン）とは，神戸市外国語大学が主催するビジネスコンテストです。この大会の特徴として，英語でプレゼンテーションを行うことが挙げられます。そんなマケコンにおいて，小野ゼミは，主催者のお誘いを受けて第 1 回から参加して，初回から毎回，入選（本選会出場）の栄誉に浴し，とりわけ第 2 回と第 5 回では準優勝，第 3 回と第 4 回では優勝を飾っています。第 7 回である今年度は，小野ゼミ第 15 期から“Team The Tempest”（合場，著者）が参加し，協賛企業でもある株式会社リクルートコミュニケーションズが，どうすれば結婚式を挙げる人を増やせるのかという課題に取り組み，結果として，関東予選突破・本選会出場という成果を収めました。

“Team The Tempest”
（左から，合場，著者）

**◆発表の概要**

私たち“Team The Tempest”は，マッチングアプリを用いた「結婚式を挙げる人を増やす」販売促進戦略を考えました。具体的には，結婚式を挙げていないカップルが，マッチングアプリを使用し，結婚式を挙げたカップルに実際に相談することによって，結婚式を挙げる意欲を高め，挙式を促進するということを提案しました。

11 月に，株式会社リクルートコミュニケーションズの本社であるグランドウキョウサウスタワーにて関東予選が行われました。アプリによるマッチングを示す“Uh～Matching”という合言葉がキャッチーだったこともあり，私たちは会場を大いに盛り上げることができました。そして，見事，私たちは 10 もの出場チームの中から，決勝に進むことができる 3 チームに選出されました。

“Uh～Matching”というキャッチフレーズで
会場を盛り上げる合場君

決勝大会では，予選を勝ち上がった 7 チームが，神戸外国語大学に一堂に介

し，予選よりも多数の観客と審査員の前で発表を行いました。

しかし，他チームが目を見張るほどレベルの高い英語でのプレゼンを行う一方で，“Team The Tempest”は，オープンゼミや四分野インゼミの資料締め切りと重なったこともあり，万全な発表準備を行うことができず，うまくプレゼンを行うことができませんでした。残念ながら入賞するには至りませんでしたが，英語でプレゼンを行うことの難しさを体感する，とても貴重な経験を得られました。

**◆発表後記**

“Team The Tempest”は，私の所属する四分野インゼミチームのメンバーから構成され，三田祭論文執筆と並行して， 11 月から約 1 か月にわたって和気藹々と準備をしてきました。私たちが考えたプラン案は，かなり早い段階で形になり，また関東予選の際に目をした他チームの発表と比較しても説得力があったため，十分に優勝を狙えると，皆，意気込んでいました。しかし，優勝はおろか入賞すらできず，悔しさの残る結果となりました。結果発表の時，自分たちが入賞できなかったという現実を知り，合場君や松本君の顔が真っ青になっていく様子を見て，私はとても辛かったです。

入賞できなかった原因としては 2 つ挙げられます。1 つ目は，決勝大会の発表準備が不十分だったことです。大会の翌日が四分野インゼミの発表資料の提出日だったため，前日も，小野先生に相談したり資料を修正したりすることを優先していました。そのため，カンペを見ず堂々とした英語のプレゼンを行うという入賞チームのレベルに達することができませんでした。2 つ目は，メンバー全員がゼミ運営タスクを抱え込んでいたということです。私自身，本務企画としては懇親会の企画，外務副代表としては三田祭ブースの管理や OB･OG 会の準備，そして論文執筆活動とマルチに活動していました。合場君は，ゼミ長として誰よりも頭を動かし，ゼミの運営や入ゼミのサポートを献身的に行っていました。マケコンに関わる作業のタイムマネジメントが十分に行われていなかったにもかかわらず，メンバー全員が，同期や第 14 期の先輩方に相談することなくゼミ運営に取り組み続けたために，マケコンの優勝から遠ざかってしまったのではないかと考えています。

このように，反省の色が残る大会でしたが，3 人で学校が閉まるまで案を考え，帰りに蒲田三大餃子の 1 つである「歓迎」の餃子を食べたことは今となってはいい思い出です。この忙しい時期に，“Team The Tempest”の 3 人で優勝を目指して共に頑張ったことを，私は絶対に忘れません。

最後になりますが，この大会に出場するにあたり，何度もご指導してくださった小野先生，そして発表の仕方や資料内容をご指導してくださった大学院生さん，第 14 期生の先輩方，本当にありがとうございました。

気合十分の“Team The Tempest”
（左から，著者，合場）